



R06.02.28/袋井市役所
第5回「医療介護現場アイデア実現ものづくりプロジェクトチーム会議」

ふくろい産業
イノベーション
センター

ふくろい産業イノベーションセンター ニュースレター Vol.33

発行日：令和6年3月5日（火）

発行者：ふくろい産業イノベーションセンター事務局

「医療介護現場アイデア実現ものづくりPJ」 取組結果を総括～試作品の最終評価等を実施～

医療介護の現場が抱える困りごと（課題）解決につながる試作品「座った人を簡単に乗せられる車椅子」の開発・製造に取り組む「異業種連携ものづくりプロジェクト（PJ）チーム」において、試作品の最終評価や取組の振り返りなど、PJ全体の総括を実施。

試作品の評価については、施設等での実証（ヒアリング）結果を踏まえ、中核機能となる「床に座った方を座面にすくい上げる機能」「座面が昇降する機能」を中心に、「操作性」「安全性」「有効性」の3点について、課題等を整理・確認するとともに、今後の展開についても検討を行いました。

併せて、PJ全体を振り返り、取組全体を総括。取組の進め方や内容について、各メンバーから様々な意見が出されました。

今後、本センターでは、本PJの実施を通じて得たノウハウを生かし「異業種連携で地域の課題解決・価値創出につなげていく仕組み」の構築に向け、取組を進めてまいります。

プロジェクトチームメンバーのコメント

●異業種連携による取組で大切なこと

異業種連携には、それぞれがひざを交えて忌憚なく話し合い、それぞれの考え方や専門性を良く理解してお互いに尊重し合うこと、目的やゴール、イメージを明確に共有することが不可欠。

●製品・サービス開発で重点を置くべきプロセスとは

製品・サービスの開発の一連の流れの中で、「課題の本質」、「現場が本当に困っていることは何か」を掘り下げて明確にした上で、技術的な要素も含めて「本質的な課題」の解決方法を具体的に検討していく「プロセス」に重点を置くことが大切ではないか。

●“プロダクトアウト”ではなく“マーケットイン”の視点で

製品・サービス開発に取り組む考え方として、「技術的に実現可能」や「製造側が良いと思ったものを作る」といった“プロダクトアウト”よりも、「現場のニーズに即したもの（本当に活用されるもの）か」や「どのようなベネフィットをもたらすのか」といった“マーケットイン”の視点を持って進めていくことが肝要。

●“仮説”と“検証”を繰り返して進めていくべき

製品・サービスを現場のニーズに即したものとしていくには、現場の見学や現場を担う職員の意見をこまめに聴くこと、そしてその意見等を踏まえて、仮説に基づきプロトタイプ（コストをかけずに素早く具体化する試作モデル）を作成し、再度意見聴取を行うなどの検証を繰り返し、機構・機能の組み上げやカスタマイズを進めていくことが重要。

その活動が現場の困りごと解決につながり、他の施設にも横展開して取組が広がるなど、“ふくろい発”の課題解決の仕組みや製品・サービス創出につながっていけば本当に素晴らしい。今後も共に取り組んでいければと考える。

●チーム内だけでなく各組織でも情報共有を

異業種連携の“強みを十分に発揮するには、チーム内のみならず、各組織内においてもPJの情報共有を行っていくことも大切。

特に、特許申請に係る「新規性」の保持とより多くの方からの意見聴取を両立させるためには、「秘密保持契約」の詳細な内容の説明や共有を組織内で徹底しておくことが肝要。

R5-2/座った人を簡単に乗せられる車椅子 医療介護現場アイデア実現ものづくりプロジェクト

概要説明

- 床に座る被介護者等を簡単に乗せることが可能な車椅子。

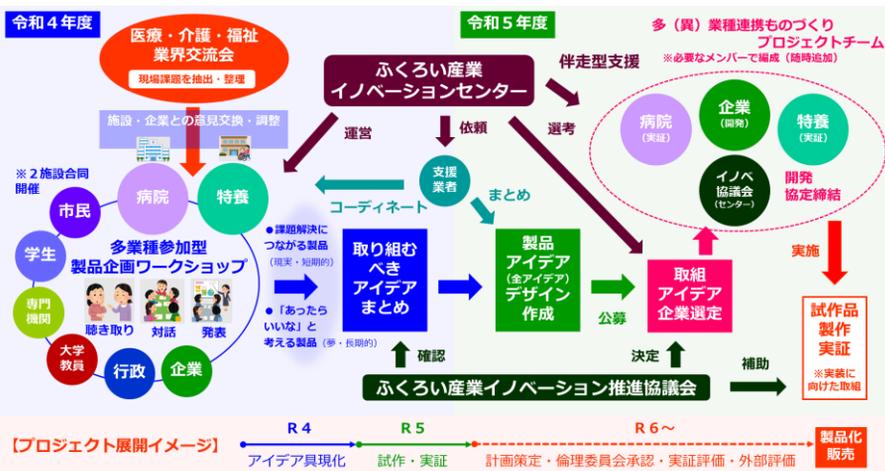
背景・特徴

- 被介護者等を車椅子に乗せるには、2名以上の介護者で被介護者を車椅子に座ることのできる高さまで持ち上げる必要があり、①人手が必要、②腰への負担が大きい、等の課題があった。
- 座っている被介護者を背後から持ち上げる機能を有しており、介護者1名で車椅子に乗せることが可能。



使用イメージ
車椅子を押す時、腰等に当たる心配がなくなる

補足 折り畳み式ではなく、スーパーのカートの様に乗せて置ける形状等になるとよい。



【上図】
試作品開発・実証に取り組んだ製品アイデア「座った人を簡単に乗せられる車椅子」のイメージ図

【左図】
「医療介護現場アイデア実現ものづくりプロジェクト」全体の取組イメージ図

お問い合わせ・相談窓口 **ふくろい産業イノベーションセンター**
 〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2 (静岡理工科大学 やらまいか創造工学センター3階)
 TEL:0538-45-0136 (直通) / FAX:0538-45-0110 / E-mail:shakai@sist.ac.jp